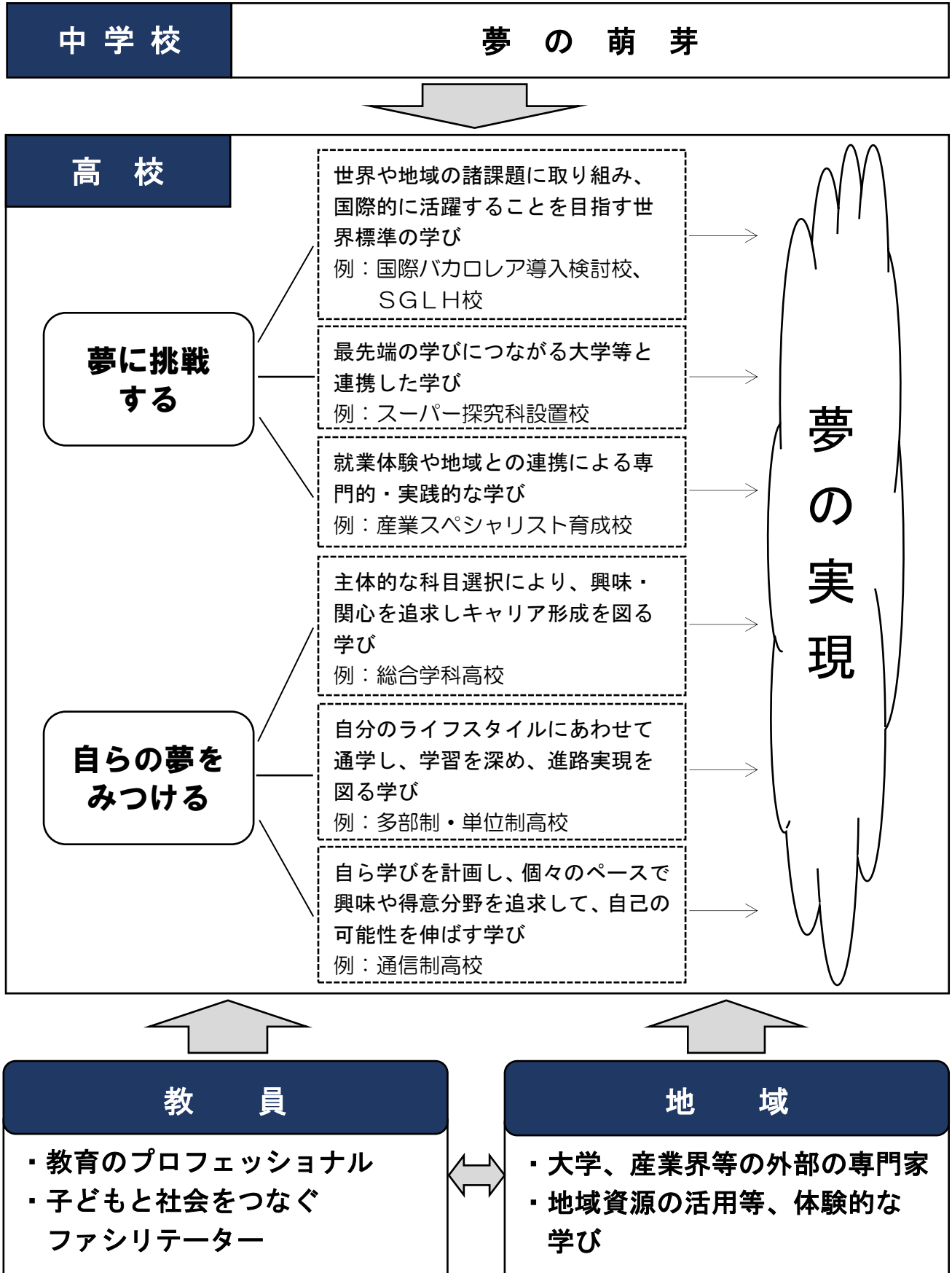


# 「県立高校「学びの改革」について

教育委員会

## 自らの夢をみつけ、夢に挑戦する学びの実現



# 「高校改革 ～夢に挑戦する学び（仮）～ 実施方針（案）」策定の方向性

教育委員会

## I 高校改革 ～夢に挑戦する学び（仮）～ 実施方針（案）

### 1 新しい教育の推進 実施方針

国内外の大きな社会変動による先行きの不透明な時代を生き抜くためには、自ら問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造していくための資質・能力が必要であるという背景のもと、学習指導要領改訂、高大接続システム改革により、高等学校教育の転換が求められている。

これらを踏まえた長野県の高校教育が目指すべき方向性は、以下のとおりである。

- ① 自ら立てた問いに対し、チームとして協働しながら解を見つけ、新しい価値を主体的に創造していくことができる資質・能力の育成。
- ② 「一度しかない人生を自分はどう生きたいか」という自分の人生を構想する力（キャリアデザイン力）の育成。
- ③ 信州に根ざした確かなアイデンティティと世界に通じる広い視野、資質・能力の育成。

すべての生徒が自らの夢をみつけ、夢に挑戦する学びの実現を目指していきたい。

#### ■ 方針1 すべての高校が、これからの時代に必要とされる新しい学びに転換します。

##### (1) 「3つの方針（DP，CP，AP）」の策定

県立高校がそれぞれ特色を持ちながら、新たな教育へ転換するために、大学教育改革で大学が策定を求められた「3つの方針」（DP：ディプロマ・ポリシー、CP：カリキュラム・ポリシー、AP：アドミッション・ポリシー）を長野県の新たな学校づくりに援用し、県教育委員会が全県統一的に示す作成指針に従って、すべての県立高校で以下に示す「3つの方針」を策定する。

##### ア DP（ディプロマ・ポリシー「生徒育成方針」）

どのような力をつけて卒業させるかを示したもの。「育てたい人物像」（学校目標）を明確化、具現化したもので、生徒、保護者、地域等と共有できるメッセージ性と具体性をもったものとする。

##### イ CP（カリキュラム・ポリシー「教育課程編成方針」）

学校全体の教育活動をどのように展開するかを示したもの。「育てたい人物像」（学校目標）に基づいて各校の教育活動全体をテーマに沿って体系化する。作成に際しては、「社会に開かれた教育課程」の観点から、地域や外部団体との連携も視野に入れる。

##### ウ AP（アドミッション・ポリシー「生徒受け入れ方針」）

どのような生徒の入学を望むのか示したもの。入学者選抜に係る生徒募集の観点について具体的に示す。

##### (2) DP（ディプロマ・ポリシー）の実効性を検証するフィードバックシステムの構築

高等教育コンソーシアム信州等の高等教育機関、経済4団体等の産業界の協力を得て、卒業生の進学先の県内外の大学・短大・専門学校や就職先の企業等からフィードバックをもらえるシステムの構築を図り、DPの実効性を把握し、教育活動の改善を図っていく。

##### (3) AP（アドミッション・ポリシー）を反映した入学者選抜制度の改革

入学者選抜制度等検討委員会の提言（2018. 2 予定）を受け、入学者選抜制度の改革を行う。

## ■ 方針2 夢に挑戦できる多様な学びの場、学びの仕組みを整備充実します。

### (1) 多様な学びの場

#### ア 多様化する生徒の学習ニーズに応える高校

##### ○ 総合学科の充実・拡大

総合学科高校は、自らの進路を考えながら、普通教科や専門教科から幅広く科目選択が可能であるため、能動的に科目を選択し、自己のキャリア形成を図ることができる。今後、こうした学科の特長を活かしながら教育内容の一層の充実を図るとともに、必要に応じて未設置の南信地区への設置を検討する。

##### ○ 多部制・単位制の充実・拡大

多部制・単位制高校は、現在、東信地区、南信地区、中信地区に各1校配置され、多様な生活歴・学習歴を持つ生徒に対応した学習指導や相談・支援体制を充実させてきている。今後、未設置の北信地区への設置の検討を含め、定時制の充実を図っていく。

##### ○ 通信制の改革

通信制課程は、個々のペースで学ぶことができる利点を活かした教育により、多様な背景を持つ生徒たちの新たな学びの場として近年注目されている。個に合わせた登校の形態をとりながら、ICTを活用した主体的な学びに取り組んだり、地域の様々な活動に参加して体験的に学びを深めたり、スポーツや芸術などにとことん打ち込むなど、生徒一人ひとりが自己の可能性を伸ばす環境を整えることが可能である。また、四年制大学等への進学にも対応できる。こうした個々の生徒のニーズに対応した通信制教育の在り方について今後検討を進めるとともに、現在、中信地区と北信地区に各1校配置されている通信制高校について、地理的に離れたところに住む生徒のためにサテライト校を導入するなど、通信制教育の学びの更なる充実を図っていく。

#### イ 産業人材を育成する高校

##### ○ 総合技術高校の充実・拡大

総合技術高校は、特定の専門学科に限定されない共通の基礎科目や、大学科の枠を越えた選択科目を学習することができる。現在、北信地区、東信地区、南信地区に各1校配置されているが、社会の変化に柔軟に対応できる産業人材を育成するために今後も設置を推進していく。

#### ウ モデル校方式による新たな学びの場の創造

改革を推進する方策の一つとして、先導的に改革に取り組むモデル校を指定し、その研究や実践の成果を検証し、広く県下の高校に普及させる。各モデル校は、特色ある学校独自の教育課程を編成・展開する。また、新たな学校運営のあり方についても研究・実践する。

(モデル校の例)

##### ○ スーパー探究科設置校

大学・大学院の研究や現代の最先端の学問分野につながる卓越した「探究的な学び」を可能にする学科を設置する。生徒の「もっと知りたい」「もっと学びたい」に応える教育課程の編成や実践を行う。大学等との単位互換を検討する。なお、スーパー探究科の対象として、突出型の学びの履歴を生かし、自己の特性を更に追究する学びを含めることについて研究する。

##### ○ SGLH（スーパー・グローバル・ハイスクール）指定校

世界や地域の諸課題について、学校外の団体・組織等と協働して解決を目指す提案型かつ協働開発型の学びを教育課程に位置付ける。文部科学省の指定事業であるスーパーグローバルハイスクールの成果の継承と普及を図る。特定の学科・コースではなく、すべての生徒を対象とする。

## ○ 国際バカロレア導入検討校

国際基準を満たす教育プログラムの一つである国際バカロレアのディプロマ・プログラム（DP）について調査・研究する。国際バカロレアの理念や教育課程、教授法及び講座編成等を研究して、独自の教育課程を編成・実践する。

## ○ 産業スペシャリスト育成校

産業現場での就業体験や授業との連携など、地域の産業人材の育成に産官学が連携して取り組む。県工科短期大学校、農業・林業大学校、技術専門校など地域にある高校卒業後の学びの場と連携して、専門的な知識・技能を身につける教育システムを構築する。

## ○ 統合新校による「新しい学校」

新たに誕生する再編統合校を、改革を牽引する学校と位置づけ、既存の考え方にとらわれない「新しい学校」を創造していく。

各校の具体的な学校像や教育内容等については、個別の再編計画策定後、早期の段階から、地域と当該校及び県教育委員会が協働して構想していく。また、構想された教育を可能にする「新しい学校」にふさわしい校舎・施設・設備についても整備する。

## (2) 多様な学びの仕組

### ア ICTの活用

ICTの環境を整備し、教室で、電子黒板、タブレット端末等を積極的に活用するとともに、例えば次のような先進的な学びを展開する。また、そのための教員研修を充実させる。

#### ① 反転学習

タブレット端末等を利用して自宅で学習動画やデジタル教材を視聴し、学校では、学んだことをもとに、課題解決や討論中心の学習に取り組むことによって、知識や理解だけでなく、思考力・判断力・表現力の向上を図る。

#### ② 協働学習

授業で発表・討論を行う際、意見の共有・分類・整理をタブレット端末と授業支援ソフトで行い、より効果的に議論を展開したり、学びを深めたりする。

#### ③ 個別学習（アダプティブ・ラーニング）

AI技術等により個々の生徒の学力に最適化された学習プログラムにより、生徒一人ひとりの得意分野や不得意分野に合わせた学びを提供し、多様な生徒の学力伸長に対応する。

#### ④ 遠隔授業

インターネット回線等を利用して、大学、企業、地域や他校の専門家の授業を学校に居ながらにして受けたり、他校と教室を結んでの協働学習を行うことで、様々な考えに触れながら学びを深める。

### イ 少人数学級・少人数学習の方向性

「探究的な学び」を推進するための少人数学習集団及び学校の課題や生徒の状況に応じた少人数の生活集団の導入を研究する。

### ウ 提案型・協働開発型課題解決学習（PBL）の推進

「探究的な学び」の一環として、「社会と結びついた学び」の観点から、自治体や産業界など地域と連携し、地域課題に取り組み、解決策を提案する学びを展開する。

### エ デュアルシステムの拡大

産業現場での長期の就業体験を教育課程に位置づけ、産官学が連携して、地域の産業人材の育成を図る取組をさらに充実・拡大させていく。

## オ 高校間連携・高大連携の推進

生徒の「あの先生に教わりたい」、「もっと学びたい」という気持ちに応え、生徒の夢の実現を支援するために、複数の高校がグループを形成し、合同で授業を行ったり、教員が相互に授業を担当したりする仕組みを作る。また、大学と連携して、大学の高度で専門的な講義を受講できるようにする。単位認定についても検討する。

## カ 特別支援教育の充実

特別な支援が必要な生徒が増加してきている中で、生徒の学びや卒業後の社会参加のための支援の充実が一層求められている。そのため、平成 30 年度から通級指導教室を順次設置していくとともに、専門性を持つ教員の高校への巡回指導の導入を検討する。また、高校に併設する高等部分教室では、分教室の教員が専門性を活かして、支援が必要な高校の生徒の支援にあたり、高校の教員が分教室の生徒の進路指導にあたるなど、相互に支援する体制を強化していく。

## ■ 方針 3 新しい教育にふさわしい環境を整備します。

### (1) ICT環境（校務支援システムを含む）の充実

電子黒板、タブレット端末等の整備・充実を図るとともに、生徒や教員のICTの活用や、成績処理など校務を支援する校内システムの構築とICT支援員の配置を検討する。

### (2) 外部人材・専門人材の活用

「チーム学校」の考えのもと、地域や産業界、大学等の外部人材を含めて学校全体で教育にあたることにより、生徒たちが多様な経験や知識に触れて学びを深めることができる環境を整える。また、スクールカウンセラー（SC）、スクール・ソーシャルワーカー（SSW）、部活動外部指導者等の専門人材の配置により、生徒たちが安心して充実した学校生活を送ることができる環境を整える。

### (3) 学習環境・生活環境の整備

老朽化対策を計画的に進めるとともに、生活環境（エアコン、洋式トイレ等）の整備を進める。

## 2 再編整備計画 実施方針

## ■ 方針 1 さらなる少子化の進行に的確に対応します。

- (1) 近距離に複数校が存在し、学びの場が確保されている都市部においては、小規模校分立の状況を回避し、教育効果・投資効果の最大化を目指す。これからの子ども達のために、できる限り早期に、新しい時代にふさわしい新しい学校を再編整備する。
- (2) 学びの場の保障が必要な中山間地においては、魅力的な学びの場の創造に向けて、地域と協力した最大限の努力を行っていく。

## ■ 方針 2 多様な学びの場を全県に適切に配置します。

### (1) 配置の基本的な考え方

ア 再編整備計画の策定にあたっては、再編を個々の学校の問題として捉えるのではなく、地域全体及び県全体の高校の将来像を総合的に検討することが大切である。

イ 新たな高校配置は、地理的な条件や通学の利便性に配慮するとともに、地域の子どもたちを地域で育てる観点からも、実質的な生活・通学圏域である旧 12 通学区単位を基本に検討する。

## (2) 校種ごとの配置の考え方

ア 普通高校は、普通科志望者が多いことを踏まえ、生活圏である旧 12 通学区単位に配置を検討する。

イ 専門高校は、旧 12 通学区単位に何らかの専門教育を受けられる高校を配置するとともに、より広域の通学区単位では、農業、工業及び商業の専門教育を受けられる環境を整えていく。さらに、6 次産業化等の進展を見据え、総合技術高校の設置を検討していく。

ウ 総合学科高校及び多部制・単位制高校は、通学区ごとに配置を検討するとして第 1 期高校再編計画の考え方に基づいて、4 通学区を基本に配置を検討する。

エ 定時制高校は、通学時間帯が夜間に及ぶことを考慮し、生活・通学圏域である旧 12 通学区を基本に配置を検討する。

オ 通信制高校は、現在の東北信と中南信への配置を基本に据え、さらなる通信制教育の充実・発展を図るために、新たなサテライト校の設置等も含めて検討する。

## (3) モデル校の配置の考え方

スーパー探究科設置校、SGLH 指定校、国際バカロレア導入検討校等のそれぞれの学校の特性と全県のバランスを考慮してモデル校の配置を検討する。

### ■ 方針 3 優先順位を定め、計画的に整備を進めます。

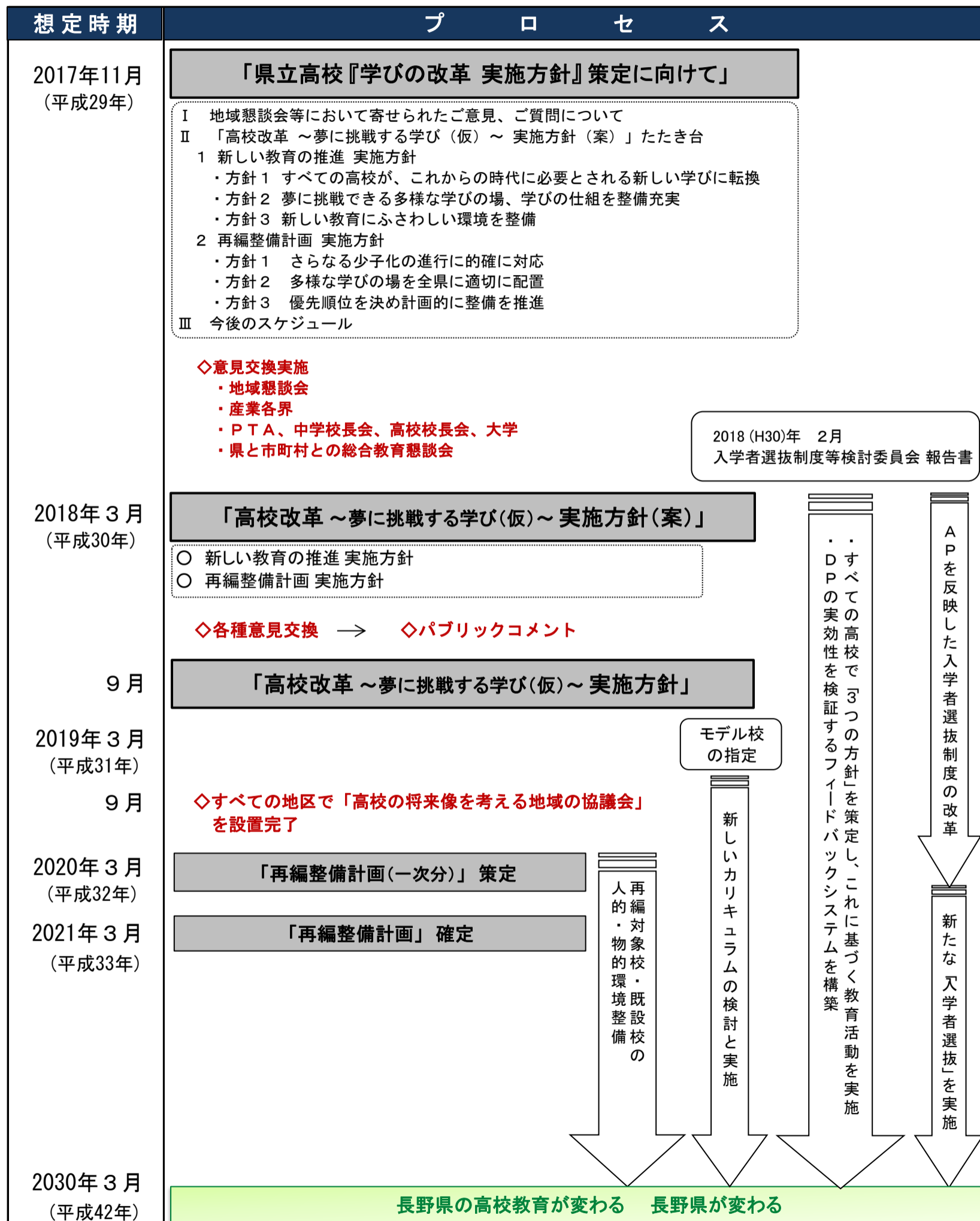
地域全体の再編整備計画が定まったところから、既存校を含め計画的に整備を進める。

## II スケジュール

**2021 年 3 月までに県全体の再編整備計画を確定し、再編に着手する。**

注) スケジュールの全体像は別紙

# 「高校改革 ～夢に挑戦する学び(仮)～」のスケジュール(案)



\*注) 生徒育成方針      DP (ディプロマ・ポリシー)      : どのような力を付けて卒業させるのか  
 教育課程編成方針    CP (カリキュラム・ポリシー)      : そのためにどのような教育をするのか  
 生徒受け入れ方針    AP (アドミッション・ポリシー)    : どのような生徒の入学を望むのか